

第3学年 社会科（公民的分野）学習指導案（略案）

- 1 日 時 令和4年7月11日(月)5校時
- 2 学 年 第3学年1組(29名)
- 3 単元名 私たちが生きる現代社会の特色(日本文教出版)
- 4 本時のねらい

【教科としてのねらい】

インターネット上での誹謗・中傷が人権や命に関わる問題となり、6月には「侮辱罪」の厳罰化を盛り込んだ改正刑法が成立した。一方で、附則には「施行から3年後に表現の自由が不当に制約されていないか検証する」ことが盛り込まれた。本時は、「侮辱罪厳罰化」をめぐる様々な意見が社会に存在することを基に、「社会を見る視点」には様々な角度からの見方があり、「人権を守る」ということについても、自分なりの価値判断が必要であることを理解させる。

【人権教育の視点に立ったねらい】

調べた内容に対する意見・感想を他者と交流することで、人権問題を自分の問題としてとらえさせる。また、「厳罰化されたから誹謗・中傷をしてはならない」というとらえ方に陥らぬよう留意し、「人として自他の人権を守りたい」という思いと態度を育む。

5 評価の観点

(1) **【知識・技能】**

- ・ タブレット端末を活用して本時のねらいに則した資料を収集し、内容をワークシートに簡潔にまとめることができる。

(2) **【思考・判断・表現】**

- ・ 改定された内容の意義・課題を自分なりに考えて、ワークシートに簡潔にまとめることができる。

(3) **【主体的な態度】**

- ・ まとめた内容を他者に簡潔に説明するとともに、他者の説明を意欲的に聞き、質問することができる。
- ・ 学習したことを自分自身の課題としてとらえ、本時のふり返りができる。

6 本時の流れ

	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	<p>【めあての提示・学習の流れの確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「侮辱罪厳罰化」の経緯と内容について調べ、その意義や課題を考える。 ・ 調べた内容や感想を他者と交流し、理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「人権を守る」ということについては様々な角度から考えていく必要があることを伝え、本時のねらいを焦点化する。
展開 40分	<p>① タブレット端末で「侮辱罪」の改正の経緯と改正前後の内容を調べる。(10分)</p> <p>② 改正された意義と全会一致で決まらなかった理由を調べそれらに対する自分の意見をもつ。(15分)</p> <p>③ ②の内容をもとに「人権を守る」ということについて考えたことを他者と交流する。(15分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調べた内容をワークシートに簡潔にまとめさせる。【知識・技能】 ・ 机間指導により、活動を補助する。 ・ 実際に施行された時に、自分自身がどう考え、行動するかを想定して意見をまとめさせる。【思考・判断・表現】 ・ 4人1組で行う。 ・ 互いに質疑応答の時間を取り、他者の発表に対する感想も述べ合う。 ・ 机間指導により交流を促す。 ・ 「目を見て聞く」「うなづく等の反応をす」「問い返す」等、他者を尊重した話合いの基本的な態度を意識させる。【主体的な態度】
まとめ 5分	<p>【学習のふり返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに本時の感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習を通しての感想と、改めて「人権を守る」ために必要だと思ったことは何かを記入する。